

やってみよう

富士川第二小中一貫校 松野学園

学校だより

目指す子供像「夢を語れる子」

学校教育目標「自ら学び ともにみがき合う」

重点目標「やってみよう！」

令和6年7月8日 No.2

経験を通して大きく成長しています

令和6年度がスタートして早いもので3か月が経ちました。7月に入り夏季休業も間近に迫っています。短い期間ではありましたが、子供たちが、様々な経験を経て、一人一人が大きく成長したことを実感する場面が多くありました。同時に、本校の子供たちの心に「夢を語れる子」を目指し、自ら学びにチャレンジし、仲間や先生、保護者・地域の皆様を含めた様々な人と、ともに学び合い、みがき合う姿もたくさん見られました。そして重点目標の「やってみよう！」の精神もすっかり子供たちの心に根付いていることを嬉しく思っています。各学年の成長や様子を、簡単ではありますが、以下に紹介します。

9年生は2泊3日の奈良・京都への修学旅行に行きました。6月後半から始まった中体連体育大会では、劣勢になっても、チーム一丸となって声援し、諦めずに試合に臨む姿が各所に見られました。心を動かされました。どんな時も、自ら



笑顔を作って周りを幸せな気持ちにすることのできる自慢の最上級生です。8年生は1泊2日の臨海学校。9年生と共に参加した進路説明会もありました。児童生徒会選挙では、後期児童生徒会の中心となって本校を牽引する覚悟を立会演説会の姿から見取ることができました。頼もしい限りです。7年生と5年生は、1泊2日で丸火への林間学校に行きました。大雨の中の炊飯活動は、子供たち自身の力で乗り越え、自信を深めました。7年生の秘めた力が少しずつ現れ、中等部のリーダーとして今後の更なる活躍が楽しみです。6年生は、つい先日7月4・5日に東京方面への夢発見旅行に行きました。夢に繋がることを見つけないという目標を常に心に留めて活動していました。非常に暑く熱中症等が心配な2日間でしたが、仲間と声を掛け合い自分たちでしっかりと体調管理もできていました。5年生は、地域の皆さんに大変お世話になり、米作りの第一歩である田植えを経験させていただきました。実際に体験することは何にも代えられない力となります。ありがとうございました。今後の収穫までの様々な経験も楽しみです。更に先述の立会演説会では、9年生までの上級生がいる中で堂々と質問する5年生が何人もいました。今後、他校にない強みである施設一体型の中等部を盛り上げる渦を更に起こして欲しいです。4年生が中心になって準備進行した1年生を迎える会も盛大に行われました。そして6月5日



(水)には松翔祭初等部スポーツの部も4年生が核となって進めました。どちら



も、4年生全員が目的を共通理解して行事に臨んでいることに感心しました。このように4年生が自ら考え、初等部のリーダーとして立派に活躍することができていることは、小中一貫教育が始まった富士市内の他校のお手本であり、「うちの学校でも4年生に任せてみよう」という希望を与えるよい結果を生んでいます。3年生は学校を離れ、市役所とかぐや姫ミュージアムの見学やスーパーへの社会科見学に行き、視野を大きく広げています。花火や交通安全に関する集会も、外部の講師を招いて行うなど、様々な人々とのふ

れあいから多くを学んでいます。2年生も地域の皆様にお世話になり、さつまいもの苗差しを行いました。また学区探検に出かけたり、生活科の授業で生き物を実際に捕まえたりと、様々な経験を積み重ねています。1年生が入学し、お兄さんお姉さんの自覚が芽生え頼もしいです。1年生は、無意識のうちに質の高い学びができる「学び方・生活の仕方」が身に付きつつあります。例えば、人の話を聞いて考える事、みんなで考えを出し合う時のマナー、非常に細かなことで言えばノートに書くときに下敷きを使う等、挙げればきりのないことですが、現在上級生が当たり前のようにできていることは、1年生のこの時期に丁寧に繰り返し支援して身に付けていきます。こうした指導を丹念に行っている1年生の担当の先生にはいつも頭が下がる思いです。



そしてもちろん、保護者・地域の皆様には、目に見えない所も含めた様々な面で、温かいご支援いただくとともに、子どもたちのささやかで目には見えにくい成長を共に喜んでいただいているからこそ、教職員も全力で子供たちに向き合うことができています。誠にありがとうございます。今後も変わらぬご支援よろしくお願い致します。

居場所づくりと絆づくり

繰り返しになりますが、本校の目指す子供像は「夢を語れる子」です。なりたい自分に向かって自分らしく挑戦し続ける姿を「夢を語れる子」と定義しています。それは、予測不可能な社会を、自らの力で切り開いて欲しいと願っているからです。そのために、まず学校に子供たちが安心して居られる居場所をつくること（居場所づくり）と同時に切磋琢磨できる真の仲間をつくること（絆づくり）が必要だと考えています。

居場所づくりは、4月からここまで行事や日々の生活の中で、意識して作ってきました。絆づくりについては、子供たち自身が互い支え合い、学び合い、みがき合い、時には意見の対立をすることで深まっています。つまり、子供たちが自ら考え行動する自己決定の場を増やすことが必要になります。夏季休業明けから、そうした場を意識的に増やし、予測できないことが起きても、仲間と共に乗り越えていける力を育みたいと考えています。ぜひ今後もお力をお貸しください。